

Citation: Esposito MAB, Koukouloupoulou A, Coulthard P, Worthington HV. Interventions for replacing missing teeth: dental implants in fresh extraction sockets (immediate, immediate-delayed and delayed implants). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 4. Art. No.: CD005968. DOI: 10.1002/14651858.CD005968.pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 21 August 2006

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 歯科用インプラントは抜歯直後の新鮮抜歯窩に埋入されることがある。この手法は'即時'インプラントと呼ばれる。'早期'インプラントは、軟組織の治癒を待ち、抜歯後数週間から、長くても数ヶ月までの間に埋入されるものである。'待機'インプラントはそれ以降、すなわち部分的、もしくは完全に治癒した骨に埋入されるものである。即時インプラントの利点は治療期間の短縮が可能なことと、骨の高さを保存できる可能性があることから審美的に良好な結果につながりうることである。即時埋入インプラントの潜在的な欠点は、感染と失敗のリスクが増加することである。

目的: 成功率、機能、合併症、患者の満足度を'即時'、'早期'、'待機'インプラント間で評価すること。

検索戦略: 本レビューでは、Cochrane Oral Health Group's Trials Register、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASEを検索した。いくつかの歯科雑誌のハンドサーチを行った。レビュー論文の参考文献を確認し、個人所有の文献を検索した。55以上の口腔インプラント製造業者とコンタクトを取った。最新のインターネット検索は2006年8月7日に実施された。

選択基準: 即時、早期、待機インプラントによる介入を行い、機能的な負荷開始から1年以上経過したアウトカムを報告したランダム化比較試験(RCT)とpreference RCT(患者の選好を考慮したRCT)。

データ収集と分析: 選択基準に合致した研究の選択と、試験方法の質的評価とデータ抽出は2人のレビューアが別々に2回行った。情報が欠落している場合には、著者とコンタクトを取った。連続変数アウトカムの結果は、平均差を用いたランダム効果モデルで、二分変数アウトカムの結果については、95%信頼区間と相対リスクを用いて表現した。統計学的単位は患者とした。

主な結果: 2つのRCTが選択された。1つは、50人の患者を対象としたRCTで、根尖部に感染のある部位に埋入された即時インプラントと、待機インプラントを比較した結果、1年後に統計学的に有意な差は認められなかった。もう1つの46人の患者を対象にしたRCTでは、早期と即時インプラントの比較が行われた。1年半後、補綴装置やインプラントの失敗、合併症、患者が評価した審美性、歯科医が評価した歯間乳頭の高さに統計学的有意差はなかった。しかしながら、待機群の患者は、早期群の患者と比較して、抜歯から歯冠補綴装置装着までの期間が有意に長く感じており、視覚的アナログ尺度(VAS)でその平均差は-20.30(95%CI: -33.36 to -7.24)であった。また、早期群では患者の満足度が統計学的に有意に高く、そのVASの平均差は-6.51(95%CI: -12.63 to -0.39)であった。一人のブラインド化された評価者による隣在歯との関係から見たインプラント周囲の辺縁粘膜の高さの評価は、早期群でより良好であり、そのリスク比は1.68(95%CI 1.04, 2.72)であった。

レビューアの結論: 限定的な患者数のたった2つのRCTから得られたエビデンスではあるが、患者の満足度と、歯槽骨の保存によるものであろう審美性向上の観点では、即時インプラントと早期インプラントは、治癒の完了した部位に行われる従来のインプラントと比較していくらか利点があると言えるであろう。即時インプラントは機能させることができ、治療期間を短縮することができる。しかしながら、この治療法の潜在的な利点とリスクを完全に理解するには、適切にデザインされたさらなるRCTが必要であろう。なぜなら、症例数を増すことによって、より多くの合併症と失敗を検出できる可能性があるからである。

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。